

学校教育活動に関する保護者アンケートの考察

1	子どもは学校に楽しく行っている。 アンケート結果から、92.1%の保護者が「子どもは学校に楽しく行っている」と感じていることが分かり、大変喜ばしく思います。これは、日々の教育活動が子どもたちの充実した学校生活に繋がっている証です。 しかしながら、7.9%の保護者が「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と回答しており、この声に真摯に向き合う必要があります。 今後は、多くの子どもたちがより安心して楽しく学校生活を送れるよう、個々の状況に応じたきめ細やかなサポートを強化できればと考えています。授業内容や特別活動のさらなる工夫を通じて、子どもたちの「楽しい」を最大限に引き出し、より魅力的な学校づくりに努めていきます。
2	学校は保護者の願いを大切にしている。 アンケート結果より、「学校は保護者の願いを大切にしている」と感じている保護者は85.6%と高く、肯定的に捉えられていることがわかります。 肯定的な意見が多数を占める一方で、「わからない」が11%存在することから、学校の取り組みが一部の保護者には十分に伝わっていない可能性があります。否定的な意見は少ないものの、さらに保護者の願いを反映させる余地があると考えられます。 対応策として、学級保護者会や学校説明会等を通じて、学校経営方針や学年・学級の取り組みを積極的に発信するとともに、個人面談や学校アンケートの自由記述欄等を活用し、校運営における保護者の意見聴取機会を増やしたり、多様な意見を吸い上げる仕組みを強化します。これにより、保護者との連携を深め、より開かれた学校運営を目指します。
3	子どもは学校行事(春の遠足、運動会、社会見学、修学旅行や宿泊学習)に楽しく参加している。 アンケートの結果より、ほぼすべての保護者が「子どもが学校行事に楽しく参加している」と肯定的に捉えており、学校行事が子どもたちにとって非常に充実した体験となっていることがうかがわれます。また、保護者もその様子をよく理解しており、高い満足度を示しています。 今後も子どもたちの主体性を尊重した行事内容を企画し、多様な体験活動を提供し続けます。また、行事の準備や実施において、子どもたちの意見を取り入れる機会を増やすことで、さらに深い満足感と達成感を育めればと考えています。安全対策も徹底し、保護者が安心して子どもたちを参加させられるよう努めます。
4	先生はわかりやすい授業に努めている。 アンケート結果から、「先生はわかりやすい授業に努めている」と感じている保護者は90.5%と非常に高く、先生方の授業努力が伝わっていることが分かります。 しかし、肯定的な意見が大多数を占める一方で、「そう思わない」が合計5.3%、「わからない」が4.2%存在することから、一部の保護者には授業内容や先生の工夫が十分に伝わっていない、あるいは改善の余地があると感じられている可能性があります。 今後の対応策としては、授業参観等を通して、保護者に授業の様子を直接見てもらう機会を増やしたり、学校だよりやホームページで、授業での工夫や子どもたちの学びの様子を発信したりするなど、情報提供を強化できればと考えています。 さらに、教員間の授業研究や研修を充実させ、指導力の向上に努めることで、全ての保護者が「わかりやすい授業」と感じられるよう授業改善に努めていきます。

5	学校は子どもたちに読書に親しめるよう工夫している。 アンケート結果から、「学校は子どもたちに読書に親しめるよう工夫している」と肯定的に捉えている保護者は68.6%と、肯定的な意見が過半数を超えるものの、「わからない」が2割以上存在することは、学校の読書推進の取り組みが保護者にまで十分に周知されていないことを示唆しています。また、約1割が否定的な意見を持っており、さらなる工夫が求められます。 対応策としては、学校における読書活動の様子を図書室の利用状況や読み聞かせ活動、おすすめ本の紹介などを、学校だよりやホームページで定期的に発信し、保護者への情報提供を強化します。
6	学校は子どものがんばりを、ほめて認めるようにしている。 アンケートの結果より、「学校は子どものがんばりを、ほめて認めるようにしている」と肯定的に捉えている保護者は85.69%と高く、日頃の先生方の努力が伝わっています。 しかし肯定的な意見が大多数を占める一方で、「わからない」が7.6%、「そう思わない」が合計6.1%存在することは、一部の保護者には子どもへの働きかけが見えにくい、あるいは十分に認識されていないことを示唆します。子どもの頑張りが家庭に伝わる機会が少ない可能性もあります。 改善策としては、学校だよりや学年・学級からのお便り等で、学校生活での子どもたちの頑張りを積極的に発信していければと考えています。また、個人面談や学級保護者会の際に、教員から保護者へ個々の子どもの良い点や成長を具体的に伝える機会を増やせればと考えています。さらに、参観日などで保護者が子どもの活動を直接見たり、成果発表の場を設けたりすることで、学校全体で子どもを認め励ます姿勢をより明確に示していきます。
7	学校は子どもが誤った行動をしたとき、きちんと対応(指導)している。 アンケートの結果より、「学校は子どもが誤った行動をしたとき、きちんと対応(指導)している」と肯定的に捉えている保護者は84.8%と高く、学校の指導への信頼が見られます。 しかし、肯定意見が多数を占める一方、「わからない」が8.3%存在することは、一部の保護者には学校の指導の様子が見えにくい、あるいは状況が伝わっていないことが考えられます。また、否定的な意見が約7%あることから、個別具体的なケースでの対応に不満を感じる保護者もいると考えられます。 今後の対応策としては、指導を行った際には、保護者への情報共有をより丁寧に行っていきたいと考えています。具体的には、指導内容やその後の子どもの変化について、電話等で詳しく伝えるよう努めます。また、学校全体として、一貫した指導方針を周知し、教職員間で連携が図れるように努めます。

8	学校は集団社会のルールやマナーを身に付けさせるよう指導している。 アンケートの結果より、「学校は集団社会のルールやマナーを身に付けさせるよう指導している」と肯定的に捉えている保護者は89.4%と高く、学校の指導が浸透していることがうかがえます。 しかし、肯定的な意見が大多数を占める一方で、「わからない」が6.8%存在することは、学校での指導の具体的な場面が保護者には見えにくい、または情報が十分に伝わっていないことが考えられます。否定的な意見も約4%あり、個別の指導内容や方法について、さらに改善の余地があると考えられます。 今後の対応策としては、学校だよりや学年・学級だより等で、具体的な事例を挙げながら、学校で指導しているルールやマナーの内容、そして子どもたちの成長の様子を積極的に発信します。また、保護者会や個人面談の際に、集団行動における指導のねらいや家庭との連携の重要性について説明する機会を設けることができると考え提案す。
9	学校は全職員で子どもの生活指導に取り組んでいる。 アンケートの結果から、「学校は全職員で子どもの生活指導に取り組んでいる」と肯定的に捉えている保護者は67.8%ですが、「わからない」が23.8%と高く、取り組みが十分に伝わっていない現状がうかがえます。 全職員での指導体制が保護者には見えにくい、情報共有が不足しているためと考えられます。また、担任以外の先生との関わりや、学校全体での指導方針も伝わりにくい可能性もあります。さらに否定的な意見も約8%あり、職員間での連携不足を感じている保護者も見受けられます。 そこで、今後の対応策としては、学校だよりや学年だより等の様々なお知らせで、すべての教職員が子どもと関わる場面や、生活指導における具体的な連携事例を積極的に発信し、全職員で指導していることを可視化できればと考えています。また、生活指導に関する情報共有を行い、全職員一貫した指導体制を強化していくように努めます。
10	学校には子どものことで相談できる先生がいる。 アンケートの結果から、「学校には子どものことで相談できる先生がいる」と肯定的に捉えている保護者は71.6%ですが、否定的な意見の合計が17%、「わからない」も11.4%、存在することは、一部の保護者が相談相手を見つけにくい、あるいは相談体制が十分に機能していると感じていないことを示唆します。特に、担任以外の先生や専門の先生（スクールカウンセラーなど）の存在が十分に認識されていない可能性があります。 対応策として、相談窓口の明確化と周知に努めていきます。また、個人面談や保護者会の際に、気軽に相談できる雰囲気づくりを心がけ、保護者が安心して悩みを打ち明けられるよう努めます。さらに、アンケートで相談内容を匿名で募るなど、保護者の声を聞く機会を増やすことも有効です。

11	学校は地震・津波や不審者から自分を守る方法を教えてくれている。 アンケート結果から、「学校は地震・津波や不審者から自分を守る方法を教えてくれている」と肯定的に捉えている保護者は88.2%と高く、学校の安全教育への理解が見られます。 肯定意見が多数を占める一方で、「わからない」が8%存在することは、訓練内容や指導の具体的な方法が保護者には十分に伝わっていないことを示唆しています。また、否定的な意見も約4%あり、安全教育のさらなる浸透が求められます。 今後の対応策としては、避難訓練の実施状況や不審者対応訓練の内容について、学校だよりや学年だより等で、具体的な訓練の様子や子どもたちの学びを積極的に発信し、保護者への情報提供を強化していきます。
12	学校は授業参観日や日曜授業参観等、保護者や地域に学校を公開している。 アンケートの結果から、「学校は保護者や地域に学校を公開している」と肯定的に捉えている保護者は98.8%と非常に高く、学校公開の取り組みが広く認知され、評価されていると考えられます。 今後もこの高い評価を維持し、さらに発展させるため、多様な学校公開の機会を継続して提供できればと考えています。
13	学校は学校の情報を学校だよりや学年通信等を通じて保護者に伝えている。 アンケートの結果から、「学校は学校の情報を学校だよりや学年通信等を通じて保護者に伝えている」と肯定的に捉えている保護者は98.1%と非常に高く、情報発信が効果的に行われていることが分かります。 学校だよりや学年だより等が保護者にとって主要かつ信頼できる情報源として機能しており、学校から保護者への情報共有が非常に良好であることを示しており、「わからない」や否定的な意見が極めて少ないことも、情報が行き届いている証だと考えられます。 今後も学校だよりや学年だよりさらにはメール配信等を継続し、内容の充実も図れればと考えております。
14	家庭では子どもの宿題等の家庭学習を点検している。 アンケートの結果から、「家庭で子どもの宿題等の家庭学習を点検している」と肯定的に捉えている保護者は87.2%と高く、多くの家庭が学習に関心を持っていることが分かります。 しかしながら、肯定意見が多数を占める一方で、約1割の保護者が家庭学習の点検に消極的、または実施できていない現状がうかがえます。 今後の対応策としては、学校だよりや学年だより等で家庭学習の目的や効果を発信するとともに、家庭学習定着に向け学校全体で「がんばりリレーノート」の活動を今後実施していく予定であります。その際は、保護者の皆様におかれましては「頑張りリレーノート」へのサインとコメントしていただき、子ども達を励ましていただきますようご協力お願いします。

15	家庭では早寝・早起き・朝ご飯等、規則正しい生活を心がけている。 アンケートの結果から、「家庭では早寝・早起き・朝ご飯等、規則正しい生活を心がけている」と肯定的に捉えている保護者は96.9%と非常に高く、多くの家庭が規則正しい生活習慣を重視していることが分かります。保護者の皆様が子どもの生活習慣の重要性を深く理解し、実践に努めていることを示しています。「わからない」が極めて少ないことも、家庭における意識の高さがうかがえます。今後もこの好ましい現状を維持し、さらに強化するため、学校は引き続き規則正しい生活習慣の重要性を様々な機会で啓発していければと考えています。
16	家庭ではあいさつやありがとうなど、他者と良好な関係づくりについて心がけている。 アンケートの結果から、「家庭ではあいさつやありがとうなど、他者と良好な関係づくりについて心がけている」と肯定的に捉えている保護者は98.9%と非常に高く、家庭でのしつけが浸透していることが分かります。また、多くの家庭が、子どもが社会性を身につける上で基本的な挨拶や感謝の気持ちを伝えることの重要性を認識し、日々の生活の中で実践していることを示しています。「わからない」や否定的な意見が0%であることも、この意識の高さと実践の広がりを裏付けています。今後もこの素晴らしい現状を維持し、さらに発展させるため、学校は引き続き家庭と連携し、社会性を育む取り組みを推進していきたいと考えています。
17	家庭では毎日の学校での出来事などを、お子さんと話しをしている。 小学校保護者アンケート結果に基づくと、「家庭では毎日の学校での出来事などを、お子さんと話しをしている」と肯定的に捉えている保護者は92.6%と非常に高く、家庭が子どもの学校生活に関心を持ち、積極的にコミュニケーションをとろうと努めていることを示しています。「そう思わない」が0%であることも、家庭での対話の意識が高いことを裏付けています。一方で、約7%が「どちらかというと思わない」と回答しており、全ての家庭で十分な対話ができているわけではない可能性があります。今後の対応策としては、この好ましい状況を維持しつつ、さらに深めるため、学校だよりや学級通信で、子どもとの会話のきっかけになるような学校での出来事や活動を発信し、学校と家庭が連携した関係づくりに努めていきます。

18	家庭では子どもの登下校の徒歩登校を支援している。 アンケートの結果から、「家庭では子どもの登下校の徒歩登校を支援している」と肯定的に捉えている保護者は75.7%ですが、約2割が支援できていない現状がうかがえます。 これは、保護者の仕事の都合、小さい兄弟の有無、地域環境（交通量、距離、不審者への不安）など、様々な理由で登下校時の徒歩登校の支援が困難な家庭があることを示唆しています。 しかしながら、学校周辺の送迎時の渋滞や地域住民への配慮などの観点から、学校としては、少し遠くても交通量の少ない場所で降ろしていただき、少しでも歩いて登校できるような対応策がとれればと考えています。 今後具体的な改善案が決まりましたら保護者の皆様へご報告したいと考えております。その際はご協力よろしくお願いします。
19	家庭では学校行事や授業参観など、積極的に参加している。 アンケートの結果から、「家庭では学校行事や授業参観など、積極的に参加している」と肯定的に捉えている保護者は97.7%と非常に高く、保護者の学校活動への関心の高さがうかがえます。 この極めて高い肯定的な意見は、保護者が学校行事や授業参観の重要性を理解し、積極的に参加する意欲があることを明確に示しています。「わからない」や否定的な意見が極めて少ないことも、学校が提供する参加機会が十分に機能していることを裏付けています。 今後もこの好ましい現状を維持し、さらに保護者と学校の連携を深めるため、今後も多様な参加機会を継続して提供して行けるよう努めていきます。
20	【お子さんにソーシャルメディア(スマホやPC・ゲーム機など)を使用させている家庭のみ】 家庭では子どもとソーシャルメディアの適切な使い方を話し合っている。 アンケートの結果から、「家庭では子どもとソーシャルメディアの適切な使い方を話し合っている」と肯定的に捉えている保護者は90.5%と高く、多くの家庭でメディアリテラシーへの意識が見られます。 しかしながら肯定意見が多数を占める一方で、約8%が話し合いができていないと感じている現状がうかがえます。これは、保護者がソーシャルメディアに不慣れであったり、話題の出し方に迷ったりしている可能性を示唆します。一部の家庭では、まだその重要性が十分に認識されていないかもしれません。 今後の対応策として学校では、情報モラル教育の重要性を児童並びに保護者にご理解いただき、適切な話し合いの場の設定ができるよう、にも啓発します。具体的には、学校だよりや関係機関から配布されるお知らせなどを配布し、ソーシャルメディア利用のリスクと安全な使い方に関する情報することで、最新のSNS事情も共有し、家庭での話し合いを促します。